

「対話と実行」座談会 グループ・団体との座談会

第2回「虹色の里横島」(H21.6.24)の概要

1 開会

司会：平成21年度「対話と実行」座談会「元気な横島づくり」の取り組みということで、ただ今より開催します。

それでは、開催に当たりまして、町長からご挨拶をお願いします。

町長：本日は、大変遠いところを越知町までお越しいただき、ありがとうございます。

高知県は、去年は計画を立てる年でしたが、本年は実行の年とのことで、現在皆様方を交えてご意見を聞くということをやっています。

産業振興計画は大変多岐にわたっており、私どもがかつて失敗した事業も中には含まれています。見直しを図りつつ県の向上を図る計画で、これを実行するために現在知事を中心に各市町村、住民の方と手を取り合い、動いておられます。本日の会は、知事のこのようなスタイルの中の一つでありますので、どうか忌憚のないご意見を言っていただき、知事の心に留めていただくことが、高知県がまた生まれ変わるためのまず第1歩になると思っています。

2 知事のあいさつ

本日は、いろいろな場所を見学させていただきました。清水井出、ミシマサイコや体験農業の現場、それから大山祇神社は本当にすばらしいと思いました。非常に急峻な地形で、恐らく高知県の中でも高度の高いところで、そんなにすべての条件が恵まれているわけではないと思います。しかし、それぞれの地域、土地、昔からある文化を生かして、今のような多様なすばらしいものを持っているのだと思います。

現在高知県は、中山間地域をどのようにしていくかが、大きな課題となっています。高知県は90%以上が中山間地域で、その地域における高齢化、過疎化、そして人口減少の問題、これは本当に深刻です。今後、中山間対策をどのようにやっていけばいいのかを、この横島の皆様から大いに学ばせていただけるのではないかと期待しています。

それでは、私からも県政、特に経済の振興のためにどのようなことをしようとしているのかについて、お話をさせていただきます。

「高知県産業振興計画」というパンフレットをご覧ください。昨年9月にリーマンショックが起り、高知県の経済状況も非常に厳しくなっています。ただ、100年に一度の経済危機と言われるように、厳しいのは決して高知県だけではありません。世界中が同時に極めて厳しい状況に置かれています。このような状況に対して、例えば公共事業を昨年比で3割から4割と大幅に追加していく、さらに緊急の雇用対策も行っていかなければなりません。7月の議会では戦後最大の補正予算を構え、対応しなければならないと思っています。

ただ、高知県の経済全体は、日本や世界全体が厳しいときに厳しくなることもありますが、日本全体の経済がどんどん良くなっていくときでも、高知県だけは全く良くなることができませんでした。むしろこちらの方が大きな問題ではないか、そこに真の問題があると思います。高知県の経済の体力がすごく弱っています。これを何とかしなければなりません。経済の体質を抜本的に強化する取り組みが、「高知県産業振興計画」です。

平成12年ぐらいの有効求人倍率は、全国も高知県もともに0.5ぐらいでした。しかし、平成19年にかけて、全国は有効求人倍率が1を超える程度まで回復しましたが、高知県は全く変わらない状況が続いています。要するに、全国が景気回復しても高知県だけはいけなくなっているわけです。ですから、今のこの世界的な経済危機を仮に乗り越えたとしても、弱った経済体質を何とかしておかなければついていけないとなりかねません。どうしてこのようになったかという、一つは最近日本全国が輸出で儲けるようになったことです。しかし、高知県の場合、外国への輸出は全国でも最下位レベルです。そういう動きについていけないことが一つです。もう一つより深刻なのは、人口が急激に減り続けています。全国の人口は、平成17年から減り始めていますが、高知県は平成2年から減り始めました。しかも、高齢化が全国よりも10年早く進んでいます。人が減り、そして高齢化に伴って一人当たりが使うお金が減る。高知県の経済はこの二つが両方起こることにより、平成と名の付いた年からどんどん小さくなっています。

平成9年は、高知県の年間商品販売額が2兆円近くありました。ところが、平成19年には1兆6,000億円まで減って県の商品売上額は約2割小さくなっています。この状況においても生き残っていくためには、高知県の外からお金を稼いでこないといけません。高知県のいいものを磨き上げて県外にも売り、県外からお金を稼いでくる。もしくは、県外の方に高知県に来てもらい、高知県でお金を使ってもらい、これができないといけません。即ち、地産外商です。ただ残念ながら、四国で地産外商ができているのは香川県と愛媛県だけで、徳島県は赤字、一番赤字が大きいのが高知県です。高知県はどんどん足下が小さくなる上に、外にお金を持っていかれ続けていたわけです。だから、高知県は全体としてなかなか豊かになれないでいます。これを逆回転させなければなりません。要するに、高知県の経済が抱える最大の課題は、県内市場頼りなことです。目指す方向は、まずは私たちの経済を自分たちの手で取り戻すため、地産地消を進める。そしてその上で地産外商の推進をしなければなりません。

地域資源の洗い出しをする取り組みを県がお手伝いしていきます。そして消費者の目線で見て売れるものとならなければなりません。そのためには消費者目線で厳しくテストをしてもらい、それを生かして商品の魅力を磨き上げていく取り組みが必要になってきます。そのための例えば試し売りをする場を県として構えたいと思います。アドバイザーの派遣などもさせていただきたいと考えています。そして最後に、販路開拓・販売拡大です。現在、大阪、東京を始めとした大都会でも、例えば商談会や県産品フェアなどを従来にないスピードで進めています。大阪では今年度4、5、6月で、昨年1年分の商談会や県産品フェアをやりました。高知県のものを今どんどん売り込んでいます。しかし残念ながら東京において、今高知県は知名度が落ちています。ですから、ある意味新しいフロンティアを開拓するぐらいの取り組みが必要です。パワフルなアンテナショップ、いわゆるセール

ス拠点を設定してものを売り、宣伝をします。合わせてデパートなどに行き、売り込みをお手伝いする取り組みを進めていきたい。そのために、7月議会で承認がいただければ、財団法人を立ち上げる予定です。

〔 H21. 8. 3 に財団法人高知県地産外商公社が発足しました。
<http://www.pref.kochi.lg.jp/chi.ji/sansinkeikaku.html#14> 〕

もう一つの課題は、産業間の連携が弱いことです。外にものを売っていくためには産業間で連携をとり、つながっていかなければなりません。第一次産業の素材を加工して売っていく取り組みが必要になります。しかし、持っていくのにお金がかかりますし、付加価値の高いものでないと都会ではなかなか売れません。高知県の場合は、あまりたくさんの量が取れるわけではありませんので、運ぶための運賃を全部吸収して、量が少なくても全体としてお金が儲けられるようにするには、高くても売れる商品でなければいけないと思います。そのためには、第一次産業と第二次産業が連携をしてものを加工し、さらに第三次産業とも連携をして、いろいろなデザインを磨き上げることが必要だと思います。残念ながら、例えば食品を加工して売る取り組み、高知県は全国でも最も小さい県の一つです。ただ逆に言えば、いろいろとやる余地があると思います。産業間の連携に努めて、例えば食品を加工して売っていく取り組みを強化したいと考えています。

そしてもう一つは観光です。外からお客さんに来てもらう。来年の大河ドラマは「龍馬伝」です。この機会を生かして、県外からたくさんお客さんをお呼びしたいと思っています。ただ、そのために条件整備もしなければなりません。飛行機や車を降りた後の交通手段が高知県は非常に弱いという問題があります。これを改善していく必要があります。さらに、自然を生かした観光として、グリーンツーリズム、ブルーツーリズムを行っていく。都会の人にとっては横畠の大自然、このような取り組みは、憧れだと思います。そういう都会の人たちにも来ていただく、いわゆる交流人口を拡大していく取り組みのお手伝いもしていきたいと考えています。観光で来てもらうと飲食業、ホテルだけでなく、おみやげ物屋さんも儲かる。さらにそこでいいなあと思ったら、都会に帰ってから高知県のものを取り寄せてくれたり、スーパーで手に取ってくれたりする、そういう波及効果があります。観光の取り組みに大いに力を入れていかなければならないと考えています。

そして最後に、第一次産業の担い手不足の問題です。先ほど申し上げた地産外商や産業間の連携により、第一次産業でご飯が食べられる、子育てができるようにすることが、担い手を確保するための一番大切な政策だと思います。ただ合わせて、新たに担い手になりたいと思っている人たちに、しっかりと研修をする。研修期間中は暮らせるように生活費を保障し、研修料を支払う。さらには土地の紹介をする。ハウスを建てる時の設備投資をする取り組みも進めたいと考えているところです。

このような一連の政策を今後実行していきます。農業・林業・水産業・商工業・観光、それぞれ全部で 311 の政策を実施していくことになっています。これは県全域で行う政策です。

地域では全部で 221 事業の地域アクションプランを掲げています。仁淀川地域においても 35 件のアクションプランを掲げていまして、越知町はミシマサイコ、山椒の取り組みで

す。観光関係は、仁淀川流域のジオパークへの取り組みを掲げています。

この産業振興計画は作って終わりの計画ではありません。とにかく本気で実行することが大切だと思います。この計画では一つ一つの政策、事業に5W1H いつ、どこで、誰が、何を、どのようにやっていくかを決めています。そしてそれぞれに予算を付けています。確実に実行するために進捗管理も行っていかなければいけないと思います。そしてもう一つ、従来の県の計画はどちらかと言うといかに作るかに力を入れていましたが、この産業振興計画はいかにして売るかにすごく力を入れていきます。

そして最後に、この計画は毎年度改善を図っていきます。机上の空論になっている部分があるかもしれませんので、それを速やかに変えます。さらに、新しい人のやる気をどんどん取り込んでいきたいと思っています。とにかく、この産業振興計画を官民協働で本気で実行していく、それによって高知県の経済体質を本当に強くしていきたい、そのように考えているところです。

司会： アクションプランにより、JR越知駅を今年度整備する予定です。それと観光では交流体験、農産物では第一次産業の振興。農業がしっかりしていないと地域の生活が成り立ちませんので、農業と観光がきちんと骨格としてできあがっていくことが大事だと思います。波及効果の面で、宿泊とお土産は越知町が少し弱いところ。そういったところで、やることがいっぱいあると思います。交流、観光の側面を支える交流体験型の観光をして、既にリピーターも増えてきている「虹色の里横畠」の活動の紹介を会長からしていただきます。

3 団体の代表者等から説明及び質疑

① 活動のきっかけ（会長）



写真は、「虹色の里横畠」を立ち上げるきっかけになった「ふるさと公園」です。昔ここは、こうこうと茂った藪で、地域の廃材を捨てるごみ箱のような場所でした。私は平成7年に42年ぶりにUターンしてきました。その明るる年に村入りをしようと4月1日に地域の花見に参加しました。しかし、その場所には桜の木はなく、公園らしきものもありませんでした。そこで、ここに憩いの場所を造りたいと

思い、この部落から一番目につく場所を選び、地主の方に協力をお願いし、土地を貸してもらい桜を植え始めました。すると、協力してくれる人がでてきて、ここに立派な公園ができました。その時に県からパイロット事業として指定を受け、平成14年の1年間、横畠の特徴を生かした、いろいろなやりたいことを網羅した一冊のノートを作り、それに従い

活動していこうと立ち上げました。

この「虹色の里横畠」のネーミングは、研修旅行で徳島県上勝村に行く朝、すごくきれいな虹が出ていました。「これはきれいな虹だなあ」と、バスに乗って徳島街道を走っていると、何回も虹に遭遇しました。研修を終え、会で「名前をどうするか」となった時に、「研修の日に虹が何回も出てきて、印象に残っているから「虹」という文言を入れたい」ということから「虹色の里横畠」というネーミングにして15年の2月に会を立ち上げました。

② 活動内容（会長）



写真は、去年の「いも煮会」の様子です。第1回目は平成15年10月に行いました。この時には、だいたい60名、70名のお客さんが来ていただきました。

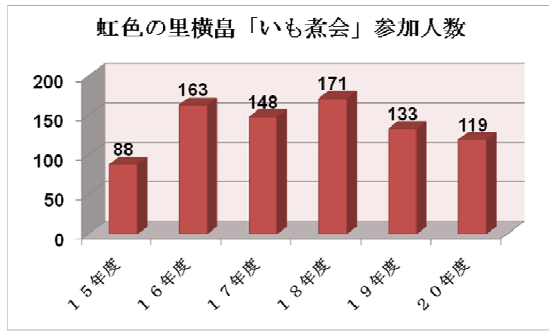


この写真は、竹の器でムカゴご飯を炊いているところです。また、友達にアユを貰って焼きました。その当時アユがあまりなくて、ひとり1本でしたが、子供さんが大きいものを握って自分で焼き、放さなかったことが印象に残っています。「サービスを売るのが観光ではない、これからは体験でいかないとダメだ」と、次からは体験でやっていくよう方針を変えました。



これはイベントの待ち時間、食事が終わってから3時ぐらいの間に、布草履作りを体験している写真です

参加者の推移(H15~20)



参加者の推移です。平均 100 名以上の方々が来てくださっています。

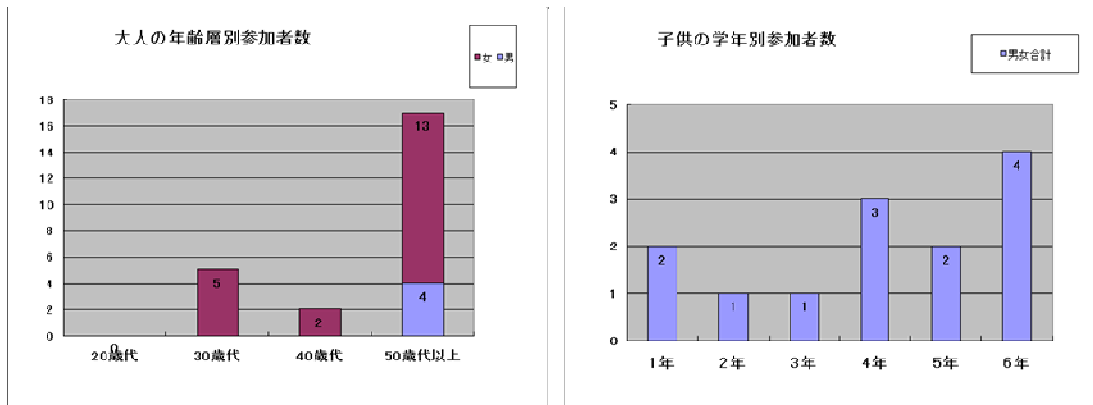


明るくなる年からお茶摘みを始めました。来た人にお茶を摘んでもらい、そしてそれを運動場に運び、窯で炒って、揉んで、そして最後に参加した人に持って帰ってもらうイベントです。今年はわらび採りもお茶ツアーと一緒に行いました。

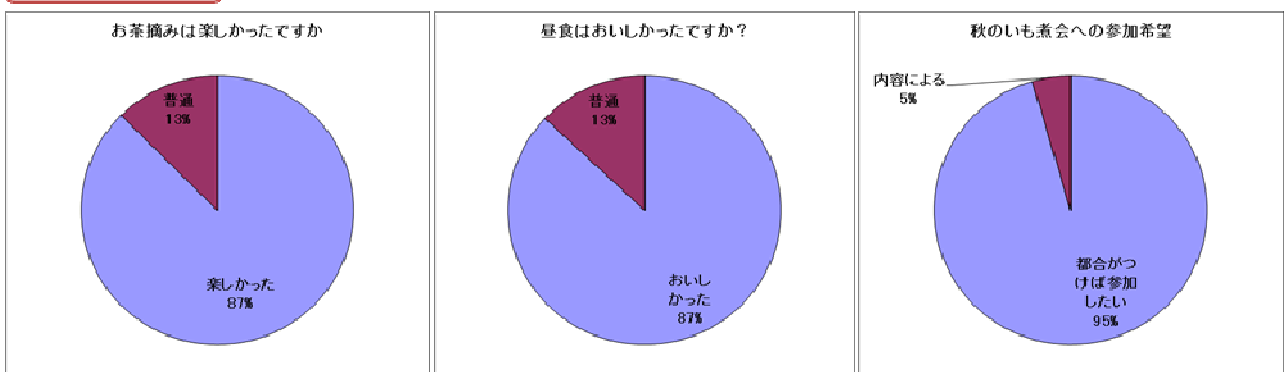


写真はエビネ蘭です。今回エビネを作っている方の協力を得て、お客さんをエビネ畑へ連れて行き、好きな花を選んで、お土産に持って帰っていただきました。

アンケート結果 その1 (回答者数:24名)



アンケート結果 その2 (回答者数:24名)



【感想など】

- ・景色のいいところ。山で新鮮。(50歳代以上・女)
- ・いつも楽しいです。5年来ます。(50歳代以上・女)
- ・のんびり過ごせてよかった。(50歳代以上・女)
- ・地域の皆さん頑張っていますね。ご苦労様です。(50歳代以上・男)
- ・いつも準備大変だと思います。ご苦労様でした。農家民泊とか、交流会。独身男女の出あいの場イベントとか。(20～50歳くらい) (40歳代・女)
- ・初めて参加しましたが、食べ物おいしく、空気がおいしくてリフレッシュできました。(50歳代以上・女)
- ・楽しかったのでずっとやっていたけど疲れました。でも他のイベントも絶対来たいです。(11歳・女)
- ・お茶摘みや揉みなど、普段の生活で味わえないことばかりで、新鮮でよかったです。(30歳代・女)

お茶摘みツアーのアンケート結果です。この中で記憶に残っているのが、回答された小学校5年生の女の子です。お茶摘みからお茶揉み、それを干したりするのを最初からずっと真剣にやってくれました。その方のアンケートには「非常にしんどかったけど、おもしろかった。来年も必ず参加したい。」と書かれていました。自分たちも磨きをかけて、真剣に取り組んでいかなければいけないと思いました。



公園の遊歩道



横倉山の女郎ホトトギス

時期になったらものすごくきれいに咲きます。

キャンドルナイトを行いました。なぜキャンドルナイトかということ、平成 19 年に私たちのグループで当初から活動していた方が二人お亡くなりになりました。グループ全体が落ち込んでいた時に、その方の奥さんが「お墓から家までろうそくを立てて、迷わずに帰って来れるようにしてあげたい」とのことで、「それならば派手にやろうじゃないか」となりました。まず、ろうそくを作るため廃油を集めて、焼却場に行き瓶を探してきて、やってみました。そしたら、お祭りの日に、お祭りが終わり家路につくべく公民館の前に出ると、ろうそくの炎を見てお客さんが感動していました。お客さんの方から「1年でやめるのはもったいないから来年も続けて欲しい」とアドバイスを受け、今年も8月8日の晩に灯そうとしています。



最後になりますが、ふるさと便です。この地域で採れた食材、加工品などを木の箱に詰め合わせて、注文していただいた方々に「ふるさとのお味」を郵送しています。これも非常に好評で、毎年 60、70 件の申し込みがあり、木の箱を作って、心をこめてお送りしています。

これが現在までの「虹色の里横畠」の活動状況です。



司会： 昨年度から始まった国土交通省の「新たな公によるコミュニティ創生支援モデル事業」に応募しましたところ、採択されて今年で2年目になります。引き続きまして、その内容についてAさんからご紹介いただきます。

③ 将来ビジョン（Aさん）

どういう目的で何をしたかと言うと、その当時「虹色の里横畠」は活動も5年目を過ぎて、少し方向性を見失っているとのことでした。これまでの活動のテーマは「交流による地域の活性化」でしたが、引き続き「交流を促進することで地域の活性化をしよう」ということを目的に、まず「活動の基本方針を再検討しよう」、二つ目に活動を進めながら「活動環境を整備しよう」、三つ目に「新しい事業でこれからどんなことをやっていくか実験をしよう」、この三つを昨年度の事業のテーマにして活動してきました。成果は「虹色の里横畠 虹色プラン」という冊子です。このような冊子を作る際には、普通コンサルタントに100%というくらい委託して作りますが、「虹色の里横畠」のメンバーは自分たちで作ろうとほとんど90%手作り、あとの10%を仕上げてくださいました。皆さんの「あれもしたい、これもしたい、こんなにしたい」という話をまとめました。



そして二つ目は、この看板です。看板屋さんに聞くと越知町では一番大きいそうです。今まで横畠は観光地でもなんでもなかったのに、役場もここに観光の案内板を作っていませんでした。昨年、ふるさとの資源を勉強しているうちに「これは値打があるぞ」と、私たちが来ていただいた方に説明をできない時でも、地域のことを伝えたい、わかるようにしておきたいと一つ目を作りました。今年は、

例えば松山街道の場合、松山街道がどんなに使われていたのかがわかるものを作る予定にしています。

そしてこの「虹色プラン」の中で、今後どういうふうにしていくか、テーマを決めました。「先人から継承した農山村の暮らしを活かした、地域内外の交流による元気な横畠」を作ることをテーマにして、三つの柱を立てました。一つ目は「農山村にみがきをかける」です。大山祇神社をもっと価値のあるものにするにはどうしたらいいかということ。それから、人も地域資源ですので、私たち自身もみがきをかけていこうとしています。二つ目の柱は、地域の小学校が平成15年に休校になり、いろいろな活動の度に地域の人たちがこの学校を使用しています。学校に非常に愛着心があります。そこで「学校を活かそう」ということで、宿泊施設、ホテルにしよう、それから加工して付加価値をつけていきたい。ここ横畠から言えば、越知や佐川、日高などや高知市内も地産外商になりますので、地産外商ができるような付加価値のあるところを整備していこうと、学校には三つの機能を持た

せたいと考えています。宿泊機能、横畠西部公民館機能、三つ目が加工です。それをどういうふうにするかは、国土交通省の事業でいろいろな講師も雇えますし、いろいろなこともできますので、今年1年かけてつめていき、来年町長にそれをお渡しして、応援をしていただこうと計画しています。三つ目の柱が、この「虹色の里横畠」発足以来ぶれずにやってきた、「人と人とのつながりを大切にする」です。まずは運営体制の強化ということで、事務局体制を強化する。都会から若者を移住させるような事業を導入して、地域のいろいろなことを体験してもらいながら、気に入ったら住み着いていただくという取り組みを今年試験的にやろうという目標設定をしています。ではいつまでにするのかという5W1Hですが、5年先です。5年先までの年次計画を立てています。

現在、高知県は官民をあげての産業振興計画の実現が最大の課題として取り組んでいますので、私たち「虹色の里横畠」も大きな期待を寄せています。その制度をぜひ活用したいと思っています。この地域にとっては、産業振興と同時に地域振興が非常に大事になると思います。「虹色の里横畠」では、どちらかということと地域振興に重点を置いた計画にしました。

今年の取り組みを展望して、この事業や今までの活動を通して得られたことを今から皆さんにも報告し、またご意見もいただきたいと思います。

まずひとつは、交流によって人が入ってきました。参加者の大半が今リピーターとなり、親戚のような付き合いも始まっています。人に見られるということが地域をみがくための一番の近道です。

次に、来る人だけではなく、自分たちも満足しないといけません。来てくれた人の満足げな顔を見たり、声を聞いたり、アンケートを見たり、そのことによって私たち自身がやりがいを感じる。「またやろう」、「もっとやろう」と元気をもらっています。これが地域の活力になると思います。win-winの関係、自分たちだけがよくてもいけません。相手に喜んでもらうことが大事です。相手の方も、「私たちが来てお茶を摘んだり、繰り返して来ることが地域の人にも喜んでもらえている」と思ってもらえる関係が大事です。

三つ目は地域の協力者が増えてきたということです。会員になって活動に参加する人もいれば、行事がある度に必ず顔を出してくれる人もいます。去年の「いも煮会」で連続6回参加をした人に会長が感謝の品をお渡ししました。地元の方で今日も来てくださっています。地元の方が続けて見に来てくれることが励みになっています。これも協力者のひとりではないかなと思います。

「虹色の里横畠」としては、「交流・体験型観光の受入れ団体としてさらに発展をしたい」と思っています。先日、高知市内のホテルに講師に来ていただいた体験型の研修会にも参加し、勉強してきました。その他に、「空き家・空き農地などを活用したい」ということで調べてみましたら、10件くらいありました。それに関しては、「もうどうでもして」という持ち主もいますので、ぜひ地域外の方に週末だけでも来ていただき、いろいろなことに参加をしていただけたらいいと思います。そして最後が、「人のつながりを大切にして来訪者を増やしたい」ということで、去年は自然案内人講座をやり、地元や越知のまちから30人くらいの方に参加していただきました。これからもどんどんそういうことをしたいと思っています。

④ 活動における課題（Aさん）

今後の課題は、三つあります。まず事務局体制、企画力、企画とか情報発信です。例えばホームページなどをこれからやっていきます。それから小学校の活用には、建築費がいります。三つ目は他の団体との交流。民間の団体ですが、行政や大学などにもどんどん入っていただきたいです。

～ 休 憩 ～

メンバーの自己紹介がありました。

4 参加者と知事による自由な意見交換

知事： 本日、実際に作業現場を見せていただいて、おいしいお昼を食べさせていただき、そして今お話を伺ったわけです。私が横畠に来るのは2回目です。1回目は選挙のときでしたから回って通り過ぎただけで、正直なところ全く余裕がありませんでした。しかし、今日はゆっくりとお話を伺い、見させていただいて、本当にすばらしいと思いました。ずっとメモをしていたんですが、本当に多様な資源を持っておられます。恐らく昔からあったのではなく、皆さんが地域おこしという観点からどんどん開発をしていかれたのだと思います。ミシマサイコ、山椒、それから、当然お米があります。ピーマン、ニラもあります。お茶の体験があります。アメゴの養殖があります。お芋があります。それからお昼には山菜、いたどり、キジの卵、トマト、アスパラを食べさせていただきました。

今、中山間地域対策といった時に、例えば農業にしても高知型集落営農と言いまして、1個の品物だけでは中山間地域は狭いので、現金収入として成り立っていかないのではないかというのが一つ。それから地理的に不利なところが多いので、比較的軽い作業で、かつ取れたものが高く売れるものをたくさん植えて、年に何回も現金収入が入っていく地域の農業を目指していこうと、県内全体で取り組みを進めています。ですが、なかなか地域の合意が得られなかったり、そんなに簡単には取り組みが進んでいないです。私は今ここに理想の姿を見たと言いますか、比較的軽くて単価が高くて、しかもいろいろな作物を植えておられるので、年に何回か現金収入が出てくる、これは底力のある地域だなと思いました。加えて、それを観光に生かそうという視点を持っておられて、しかも十分に生かしています。例えばお茶にしても、それからお芋を植える体験農業をやったり、地域外の皆さんに体験をしてもらうことにすごく力を入れておられる。

中山間地域、限界集落、田舎というどうしても内にこもりがちになりますが、だからこそ外に打って出る強さと言いますか、観光で言えば、外から人を引っ張ってくる力、それがぜひとも必要だと思っています。交流人口拡大のため、しかも自然という

いろいろな体験農業などを生かして、強みを生かした形での観光振興を図っており、本当にすばらしいです。中山間地域の今後の大きなモデルになるのではないかと思ったところでは。

もう一つすごいなと思いましたが、外にも直接売っていかうとやっておられる。「ふるさと便」できればこれを詳しく教えていただきたいです。

会長： この「ふるさと便」を提案してくれたのは、農業改良センターの職員です。横畠でもやってみたらどうかと話があり、「いも煮会」のときに申込みを受け付けました。最初は30件くらいだったと思います。餅、干し柿、しめ縄など全部この地域で取れたもの、作ったものをいろいろ10種類か11種類くらい入れたと思います。小豆やこんにゃくなども入れました。するとあまり人気がありませんでした。けれどそのときにアンケートが4、5枚来ており内容を見たら、涙が出るわ、胸が熱くなるわで、これは止められないとなりました。再度作る視点を変え、木の箱を作り、品物を12、13品入れて送りました。そしたら今度はものすごく反響がよかったです。蓋を開けると木の香りがし、そして上から順番にしめ縄をとったら、次は何が出てくるだろうと思ったら、お餅が出てき、いろいろなものが出てきて、本当に玉手箱みたいだという話でした。言葉では言えないですが、胸を打たれるような回答がたくさん寄せられました。現在は申込みが大体60、70件来ています。これからイベントが済んだら、合間合間を見ながら夜なべに木の箱を作って、準備に入ります。田舎のふるさとの味と言うか、これを一回試食したらもう止められないということで、「いも煮会」にせよ「お茶」にせよリピーターが増えて、今家族ぐるみの付き合いができました。そして、これを支えているのが地元の応援団、地元の協力部隊であり、本当に感謝をしています。

知事： ありがとうございます。「ふるさと便」で送ったら、その後もずっとリピーターになりますね。「いも煮会」で「感動しました」「すばらしい」と思った人が、「ふるさと便」でずっとつながっていきます。また来ようということになります。もっといえば、地元のスーパーに横畠で食べたものがあつたら、つい手が伸びます。これはすばらしいです。

あともう1つ、小学校を今後どういう形で展開させていかうと思っているんですか。

Aさん： 三つの目的で使用しようとしています。一つは宿泊。ここに体験に来るお客さんを中心に泊まっていた。他に、最近家の法事などのお祭りのために帰っても、高齢者が多く、家が泊まれる状態じゃない方が多いです。そういうときにも泊まっていた。要するに、出身者の交流の拠点にしようということ。その拠点の活用の仕方が宿泊施設。

もう一つが、地産外商に向けた農林水産物の加工施設。

そして三つ目が公民館としての機能で、地域づくりの拠点にしようということです。越知町役場横畠支所みたいな感じにしよう。

昨年の「新たな公の事業」の最後に、このような三つの機能を持たせるという方向

が出たことを町長に報告しました。町長も、「実は越知の町にお客さんが来ても、越知には泊まっていただく施設が少ないので、いつも町外のホテルに公用車で送ったりもしている。それに代わるビジネスホテルのような機能も持たせることも考えてみてはどうですか」と逆提案をいただきました。ぜひそういう部屋もある、自炊ができる部屋や機能もあるという感じで活用したいと考えています。但し、このメンバーだけで運営するのは難しいので、新規雇用しないとやっていけないと思います。具体的には、これから年末ぐらいにかけて考えたいと思っています。

知事： 運営主体とかをこれから決めていくということですか。会社にするんですか。

Aさん： 運営の方向とどういう機能を持たすかは、これから話し合っていきます。先ほど私が県のアドバイザー制度を活用したいと言いましたのは、もしかして支援いただけるかなというところです。

知事： 産業振興計画は結構間口の広い、いろいろな政策を持っています。例えば一番簡単なものはアドバイザーで、県内外の方も含めて50人ぐらいを雇っています。ですから地域の皆様からのお話に応じて、一番最適だと思われるアドバイザーを派遣させていただくことがあります。一番大型の支援策は、地域アクションプランになったものに対して、総合補助金でバックアップをさせていただきます。これは補助率が3分の2ぐらいになります。ただ、こういう大型のものになると非常にハードルが高くなってきます。今後事業としてずっと成り立っていく見込みがあるかどうか事前に議論させていただいて、それをクリアしたら補助金が出るという形になっています。他には、地元で作られたものを販売促進するために、例えば高知市内の大手スーパーさんにご協力をいただいて、地元のものを試し売りする場、テスト販売をするコーナーを設けてもらうことにしていますので、そこで売れるかどうか一度試し売りをしていただく。売ればもっと伸びるでしょうし、売れなければさらに商品の改善をすることになってきます。まだ少し先になりますが、東京にアンテナショップを設けるだけでなく、高知市内に各市町村のアンテナショップみたいなものを設けようと思っています。これは地域の皆さんのチャレンジの場としてぜひ使っていただきたいです。県と高知市が一緒にお金を構えて場を設け、割と安く利用できるようにしたいと思います。高知市内の中心市街地に設けることで、観光資源としても生きるように、県外からここに来たら高知県全体のいろいろなものが見れるように持っていければと考えています。まず一番最初にPRをするときにはそういう場を使っていいただければと思います。アクションプランだけではなくいろいろ使えるものがありますので、様々な仕組みをぜひともご活用いただければと思います。

高知県の観光の課題について少しだけお話をさせていただきたいと思います。一番大きい課題は、観光地に行ってもお金を使うところがないことです。もしくは、観光客が地元にお金を落としてくれない。高知県に観光に来られる方は日帰りの方がものすごく多いです。せいぜい1泊で、2泊以上する人は全体の4分の1もいません。泊まる宿泊

数が少ないです。泊まると夜ご飯も食べてくれたりするので、お金が落ちるのが一番大きいはずですが、それがないです。だから、できるだけ地元を寄ってもらい、泊まってもらうことが大切です。

それと、高知県の場合はお金を使うところのない観光地が多いです。これは今、どんどん改善しようとしています。例えば来年の「龍馬伝」は岩崎弥太郎から見た坂本龍馬を描きますので、岩崎弥太郎邸、岩崎弥太郎が生まれた生家、こちらは日本でも有名な観光地になる可能性があります。しかし、岩崎家が管理しており、無料で入れます。周りにはおみやげ物屋さんもないです。すごくもったいないと思います。そこで500円、1,000円使ってもらえると大きな経済効果になります。だから、実は今地元の方々がお饅頭などいろいろなものを売ろうという取り組みを始めています。

統計を見ますと、一人当たりの観光客が高知県で使うお金が23,800円です。これはホテル代も入れてなので、ものすごく少ないです。しかもこの金額は4年連続でずっと落ちています。ところが昨年は1,700円上がり25,500円になりました。昨年は「花・人・土佐であい博」で、例えばコスモス祭りもすごく盛んにやられて、花を見ていただくだけではなく出店もして、お酒も出て、腕相撲大会までやっていました。花を見ると同時に、花より団子の団子の部分も徹底してやられた。このような成果が各地で現れたと思います。高知県には観光客の皆さんが300万人来ますから、一人当たり1,700円増えると効果は絶大です。観光部分の経済効果は前年に比べてプラス7%でした。だから、やはりやれば効果が出ると思いました。

横島の皆様は既に分かっていると思いますが、地域に観光に来られる人いろいろな体験をしてもらおうと当然お金が落ちると思います。さらに小学校で泊まるという要素も加わってくると、本当に大きな力になるという感じがします。小学校についての取り組みもぜひ頑張っていたきたいと思います。我々に何かできることがあれば、ぜひさせていただかなければいけないと思います。

司会： いい面ばかり出てきていますが、高齢化が着実に進んでおり、草刈りもできない、買い物もできない、ゴミも出せない方もいらっしゃいます。それを手助けする「何でもお助け隊」、勝手に名前を付けていますが、それをやりたいという方がメンバーの中でいらっしゃいますので、Bさん、そのことをお願いします。

Bさん： 年がたって動けない、ゴミが出せない、家が壊れたけど直してくれないかという方がいます。それで周りを見たら、定年で退職した元専門家、技術職の人がいる。しかも用事がないので遊んでいる。そういう方をここに入れたら、これは何でもできるのではないかと思います。私が提案させていただきました。現在は、全てボランティアでやっていますが、ある程度お金をもらい、そして仕事をしてもらう人にもお金を出して、双方がやっていけるのが一番いいのではないかと思います。お百姓の手伝いから、大工さんのお仕事も、水が漏れだしたら水道のお手伝いもという感じで、やっていったらと友達に話をしました。この不況で失業している職人もいっぱいいます。そんな話をしていたら、給料は普段の日当ほど出ないけど、空いているときにはメンバーに入

れてくださいという声が聞こえる状態なので、ぜひやってみたいと思っています。

Cさん： 大事な水を守り平成2年から20年まで水道の管理をしています。現在、黒森山がはだか山になってしまいました。大雨が降ったら水源地まで一帯にどだーっと流れていかないと心配しています。聞くところによると漁業協同組合が苗木を植えるということで、大変感動しました。

司会： その件については、町長からお願いします。

町長： 黒森山の24haは大変広いところで、樹齢も結構たった木を皆伐しています。この24haを越知町が買うという計画です。仁淀川漁業協働組合、それと高知県森と緑の会、この二つの会が100%援助をして、苗木を購入し植えます。ただ、越知町としてはこの二つの団体だけではなく、地元の人にもボランティアで入ってもらった方が、非常にいいだろうとこの間お話をしました。植える木はケヤキ、山桜を始め、できるだけ水源の涵養になる木を植えることになっています。植える時期は今現在話を進めていますが、9月の議会で予算を計上したいと思っています。実際に植えるのは、1回目は本年の11月から来年の3月末まで連続で植えます。ただ、大変広くて副町長に聞きますと1回に10ha以上切ることは難しいとのこと。全部切ってから木を植えるのでは時間がかかりますので、切った所は全部植えていく。木材に適さない、曲がり材とかは、そのまま残しておいてもらいますので、一部複合林みたいな形になります。そういう意味で水の心配がないように町も考えていますので、ご協力をお願いしたいと思います。

司会： 加工面の意気込みをDさんからお願いします。

Dさん： 現在「どんぐり」として、私とEさんと2人で加工品、主にお菓子づくりをしています。先ほど昼食をとった集会所が加工場になっています。そこで許可を取り、製造して、主に量販店と直売所に出しています。出すようになってから7年ぐらい経ちますが、量もかなり出るようになり、少しは「やっているな」という生き甲斐を感じるようになりました。これを踏み台にして、もう1歩前進したいと思っています。それでこれ以上のことは2人ではなかなか望めませんので、興味のある方はぜひ積極的に参加をお願いしたいです。また新商品も開発しないといけないと思っています。

知事： 先ほどご意見をいただいた「お助け隊」の話、どんどん高齢化が進んでいますので、確かに困っておられる方もいると思います。中山間対策は、県としても本当に試行錯誤の繰り返しではないかと思っています。20年度予算の時に少し拡充をして、この時には二つ対策をたてました。一つは生活を守るための事業。例えば水道が全くない、だから簡易水道ができるようにならないかとか。それから当時すごく心配をしたのは、高齢者の皆様の日々の生活の足が非常に苦しいのではないか。だから例えば軽トラな

どを地域で共同購入する場合には一定の補助をする、そういうことを新しいメニューとして作って、他にもいろいろなメニューがありますので、できる限り使っていただけたらと思います。

もう一つは、産業を作るです。これがむしろ、今どんどん発展して、地域アクションプランとか、産業振興計画になっているんだと思います。ただ生活を守ることにについて言えば、高齢者が一人暮らしでかつ加齢に伴う障害をおっておられる方もたくさんおいでだと思いますので、そういう方に対するケアをどうするか、やはりこれが大きな課題だと思います。これに関しては、いろいろな仕組みがあると思います。例えば「見守り隊」みたいなものもあります。高知新聞さんも例えば新聞が溜まっていると「何か起こっているに違いない」、ということで見守りしています。先ほど言われた「何でもお助け隊」のような地域コミュニティでの活動はより実践的というか、深く突っ込んだ取り組みなのかもしれません。私たちもそういう地域の取り組みを参考にさせていただきながら、私たちの取り組み自体をよりバージョンアップしていく。より実効性のあるものにしていく、そういう努力を続けていきたいと思っています。

それから、食品加工の分野はぜひ頑張っていたきたいです。うまく加工することで値段がすごく上がったりもします。それから、ものを運ぶのに時間がかかる所でも、加工をすればあまり鮮度が関係なくなったりして、場合によっては県外も目指していけるとと思います。ただ、一般論として言わせていただければ、何でもかんでも加工したから売れるかというところではありません。同じような加工品が世の中には溢れています。例えば、ブドウを加工してジュースにするとっても、ブドウジュースという商品が世の中にどれだけあるか。ブドウのゼリーという商品が一体どれだけあるか。その中でもより売れるものにしないとイケません。だから先ほど申し上げたような試し売りの場を使い、磨き上げていただくことが必要になると思います。もう一つ加工では、よく食品衛生法上の規定をクリアできないために、量販店に並ばないことがあります。法律の関係がものすごく難しく大変だと聞いたことがあります。「どんぐり」の商品はもう既に量販店に並んでいるので、全てクリアしているのだとは思いますが、例えば法律の専門家をアドバイザーとして派遣させていただくことで、何かを補うことができはしないかと思っています。さらに、実は高知県の場合、素材だけ提供して加工するのは県外の人やっているというパターンがものすごく多いです。この一番儲ける部分を県外でやっている。この間、北海道のアンテナショップに勉強に行った時にも思いました。北海道のアンテナショップで高知県産ショウガ100%使用のショウガ飴を売ってました。高知県産ショウガ100%使用というのがブランドになるのは嬉しい話ですが、加工して値段をグーンと上げて売っている部分を県外に取られていることは非常に残念です。それをできるだけ県内で、もっと言えばできるだけ地域でやることにより、地域の雇用と所得につなげていく取り組みがもっとできればいいなど、今県全体としても考えているところです。

やはり第一次産業が高知県の強みです。さらに所得を上げようとしたときに、他に一番展開しやすい分野は、やはり第一次産業を基軸にしたときには食品加工ではないかなと思います。またいろいろと教えていただければと思います。ありがとうございました。

した。

Fさん： 町内から来ましたFです。

越知は本当に素晴らしい山と川がありまして、自然景観はということないです。高知県立横倉山自然公園がありますが、登られたことはありますか。

知事： すみません、ありません。

Fさん： 今回「越知の平家会」を代表して、ご要望を申し上げたいと思い、意見をさせていただきます。

横倉山は、地質学的にも植物学的にも非常に有名な所です。しかも、宝物が眠っています。それは、「平家の落人伝説」です。昨年度は、「遥かなる都」というアニメのDVDを制作しました。安徳天皇が横倉山に落ち延びて、23歳で亡くなるまでをドラマにして作り上げた、素晴らしい創作的なアニメです。地元の者が声優として入り、仕上げています。

それと、「横倉の風」というご当地ソングがあります。これは癒し系の本当に素晴らしい歌です。広島県出身の方が横倉山に登られて感動を受け作詞作曲をしてくださり、すごくいい歌ができました。

実は平成22年度は安徳帝が亡くなられて810年という大きな節目になります。この時に何とかこの町をもう一度活気のある元気な町にするため、まちづくりに挑戦しています。その中で、次にアタックしたいのが生の演劇です。「遥かなる都」を地元作の演劇にしたいと思っています。それからもう一つは、この越知町に関係のある小説家の方が安徳帝に因んだ素晴らしい本を作りました。これをぜひ記念出版として取り上げたいので、先ほどのアドバイザーの先生方にもご相談して、これを何とか世に出るように頑張ってみたいと思っています。

知事： (せっかくなご提案に) 暗いことを言って恐縮ですが、演劇や歌などのような一般の興行みたいなことに県民全員の税金を使うことは難しいです。そういう限界はありますが、いろいろな形で例えば後援に参加させていただくとか、安徳帝伝説、安徳陵の中でも正に天皇家そのものの丸の字型の道があるのはここだけとのことで、例えばそこを観光資源としてPRするとか、そういうところでご協力させていただけるところもあろうかと思えます。できることと、できないことがあります、できる中で越知町全体の盛り上げに、努力をさせていただきたいと思えます。

もう1つ、横倉山からは日本でも一番古いぐらいの地質が出てくる、地質学的にプレートテクトニクスの動きが地上で初めて確認できたのがこの地域だとか。いろいろな資源があります。室戸は日本ジオパークになって、今度は世界を目指していますが、越知町もぜひ日本ジオパークをまず目指して、そこから世界ジオパークを目指してやっていけばいいのではないのでしょうか。世界ジオパークはユネスコが決めています。認定されると世界的なお墨付きを得たような形にもなります。これも県のアクション

プランの中に入っていますので、みなさんと一緒に一生懸命やっていきたいと思っています。

Gさん： 道の話をしていただきます。側溝の壁（の上面）から路面まで（の高低差）がひどい所は20cm、それを越えるくらいあります。それで土を斜めに盛っているため道幅が随分狭く危険なので、側溝の嵩上げをして直していただきたいです。やはり道というのは大事なものです。農産物も運ばないといけません。みんなの命を運ぶ道ですからよい道にしていきたいと思います。よろしくお願いします。

司会： 筏津から道の改良もしていただいていますので、もし帰りに時間がありましたら5分くらいの違いですので、そちらにも回っていただけたらと思います。

※ この道を通して、帰庁しました。

知事： 結構道に熱心な知事ですので。（県内各地域の道路の整備は優先順位をつけて進めていきたいと考えています。）

司会： 最後に知事からご挨拶をお願いします。

知事： 本日は、現地を見させていただき、「どんぐり」の皆様にはおいしいお昼ご飯を食べさせていただきました。本当ごちそうさまでした。そして、この会ではいろいろと詳しいお話を聞かせていただきました。今後もこの地域でのお取り組みをより深く勉強させていただいて、県政全般に生かしたいと考えているところです。本当にありがとうございました。